



## 平安時代の貴族は、どんな遊びをしていたの



蹴鞠・打毬・小弓や、いろいろな物合をしたり、  
宴会を開いたりしたんだよ。

### 平安時代の貴族のおもな遊び

蹴鞠：ふつうは8人で、しか皮のまりを足の甲でけり上げ、落とさないように受けわたしする。

打毬：2組にわかれ、馬に乗って、紅白のまりをスティック（毬杖）ですくい取り、自分の組のゴール（毬門）に投げ入れる。馬に乗らないものもある。

小弓：弓で的を射る。

物合：2組にわかれ、両組が物を出して、どちらがすぐれているかを競い、勝った回数が多いほうが勝ち。雄鶏をたたかわせる鶏合、小鳥の鳴き声を競う小鳥合、花の美しさを競う花合、和歌をつくって競う歌合など、たくさんの種類がある。

韻塞：古い詩の一部の文字をかくし、たがいに推理して当てる。

碁：今の囲碁にあたる。

### 宴会が大好きだった

貴族の年中行事には、曲水の宴（3月）・観月の宴（8月）・重陽の宴（9月）など、宴会が開かれるものがありました。また、自宅に客を集めて宴会を開くことも、よくあったようです。これらの宴会の席では、和歌・楽器演奏・舞などを発表しました。そのため、貴族の社会では、和歌をつくったり、楽器を演奏したりする教養が、必要でした。